

令和3年度 学校評価アンケート集計結果及び分析結果

今年度も、生徒・保護者の皆様には学校評価のアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。集計結果を基に、各分掌・学年で評価分析をいたしましたので、以下の通りお知らせいたします。これを基に学校評議員の皆様からご助言をいただき、次年度の改善に役立て、今後の教育活動に生かしていくように努力して参りますので、今後ともご理解・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

1 回収率

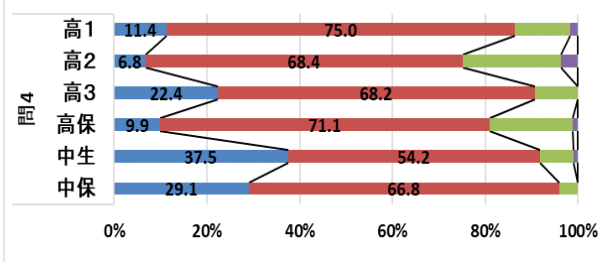
- (1) 中学生 96.2% 保護者 54.6%
- (2) 高校生 1年生73.6% 2年生57.3% 3年生46.3% 保護者39.0%

2 評価結果及び分析について

※グラフは左側から、「よく当てはまる」、「だいたい当てはまる」、「あまり当てはまらない」、「当てはまらない」の順です。
 ※アンケート問1～3は、学年・組・氏名なので載せておりません。
 ※問4～16の表中左側の項目は、上から「高1」「高2」「高3」「高保」「中生」「中保」の順です。「中生」は中学生、「中保」は中学校保護者、「高保」は高校保護者のことです。

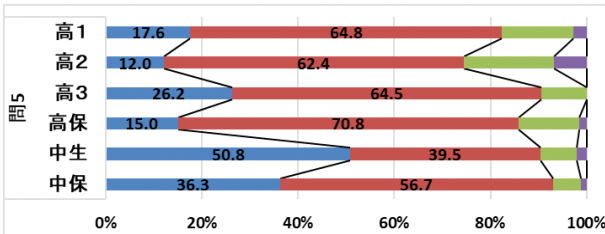
○県立学校共通質問事項

【学習指導（学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている）】



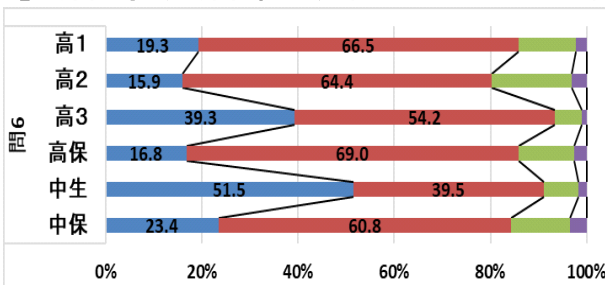
(分析) 全体としては昨年度と大きく変わらない評価であったと言える。概ね肯定的な評価をもらっていることを読み取れるが、昨年度の臨時休業期間に試行錯誤しながら取り組んだICT機器の活用を、今年度の授業に生かしていること等が、学習指導に対しての肯定的評価につながっていると考えられる。今年度から生徒用のiPadの整備も進み、授業におけるICT機器活用の幅がますます広がっていくことが考えられ、教科間で協力して授業での取組事例を共有するなど、より良い授業づくりを進める方法を検討していきたい。

【生徒指導（挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている）】



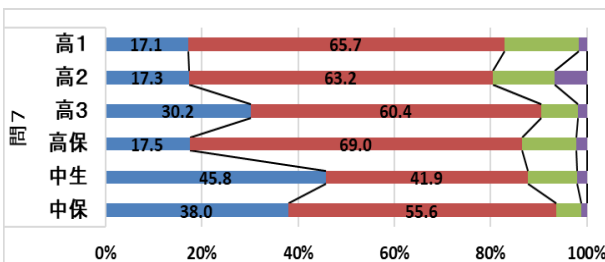
(分析) 生徒・保護者ともに例年並みの評価である。コロナ禍により保護者の方々の来校機会が減る中で、このような評価が表れてきたことは、日頃の生徒諸君による自発的・主体的な生活習慣確立の賜物と言えるだろう。今後はより一層、基本的な生活習慣の確立に重点を置き、定期的な「マナーアップ週間」等を設定しながら、全校挙げての指導に邁進していくよう検討する。

【進路指導（進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている）】



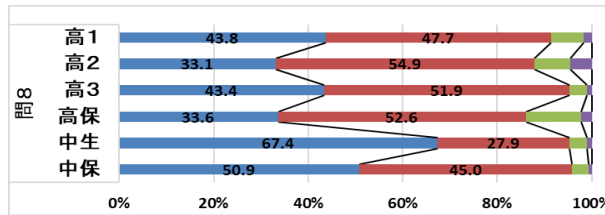
(分析) 中学生および高校3年生の数字が高いのは例年の傾向である。特に高校3年生にとっては昨年度から新入試が開始されたことによる関心・意欲の高まりと、進路指導部・学年による情報提供が綿密に行われた結果だと思われる。また、中学生の数字の高まりは、中高合同の進路指導部会や情報の共有、中学校の先生方の高い意識によるものだと理解している。一方で高校1・2年生の数字が低い原因は、新型コロナウイルスの影響による秋の臨時休校や総合学習の時間が探究の時間に変わったことによる進路的なガイダンスが減少した影響もあったと思われる。学年担当と相談しながらWEBやキャリア通信を通じて必要な情報の共有に努めていきたい。

【教育相談（教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている）】



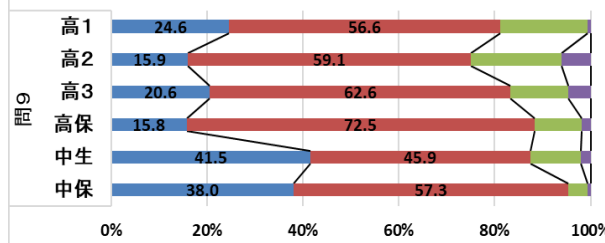
(分析) 中学生・高校生、その保護者ともに「よく当てはまる」「大体当てはまる」が90%近く、概ね肯定的評価を受けている。中高ともSC(スクール・カウンセラー)は女性であり、話しやすさもあるのかもしれない。ただ、高校は年度途中でSCが交代しており、継続性の面からは、生徒への影響も若干否めないとと思われる。相談件数は漸増傾向にあるので、担当者・養護教諭を中心に学年での情報共有を図り、早期の相談へつなげられるように体制を維持していきたい。

【部活動（学校として、部活動は活発に行われている）】



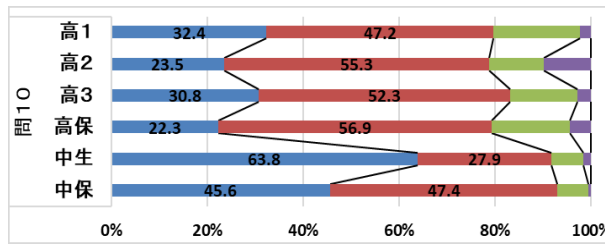
(分析) 概ね高い評価を得たと読み取れる。国・県から示され策定した「部活動ガイドライン」の運用も3年目を終え、計画的かつ効率的な取り組みが定着してきた。次年度以降も地域・生徒・保護者の要望に応じた部活動指導に取り組んでいきたい。

【生徒会活動（学校として、生徒会活動は活発に行われている）】



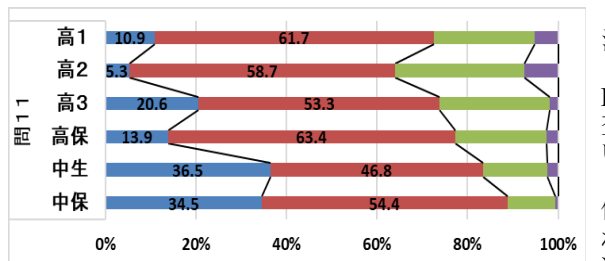
(分析) コロナ禍での生徒会活動は、生徒総会をはじめ一斉開催の壁があり、その対応に苦慮したが、生徒会執行部のアイデアや活躍により、昨年度並みの評価を得た。次年度以降も感染症対策を講じての生徒会運営を念頭に置き、今年度の反省を活かしながら、新たなスタイルの構築に努めることが当面の課題である。

【学校行事（有意義な学校行事がある）】



(分析) 昨年度は肯定的評価がポイントを下げたが、今年度は一昨年度並みに回復した。黎明祭の1日開催と合唱祭(中学)中止はあったものの、体育祭・球技大会(高校)は感染対策を取りながら実行委員生徒のアイデアを吸収し、ほぼ一昨年同様の形で実施できた。まだまだ物足りないところもあるとは思われるが、引き続き「With コロナ学校行事」を模索していくことが必要であろう。

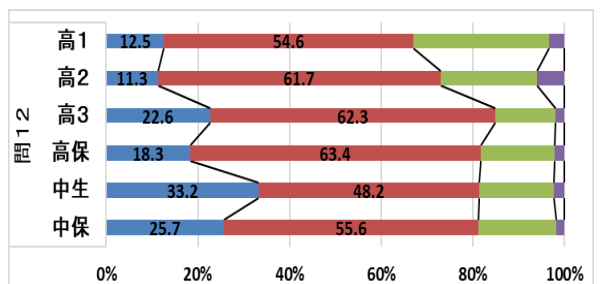
【特色ある学校づくり（地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる）】



(分析) 肯定的回答「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」に注目すると、他の質問の集計結果よりやや低い結果ととらえることができるが、経年比較をすると、高校生保護者(R02 79.3%→R03 77.3%)以外は、昨年度より増加している。今年度の結果を調査対象どうしで比較すると、中学校・高校とも、保護者の方が高い結果を示している。SSH事業を活用した各種取組や、ICTを活用した授業の展開、リモート授業の運営などの実施が深化・定着し、保護者からも肯定的な認識を持たれるようになってきていると考えられる。それ以外にも、進路指導や学習指導、学校行事など各種取組の成果が、何年もかけて生徒・保護者・地域に認知されてきているようである。

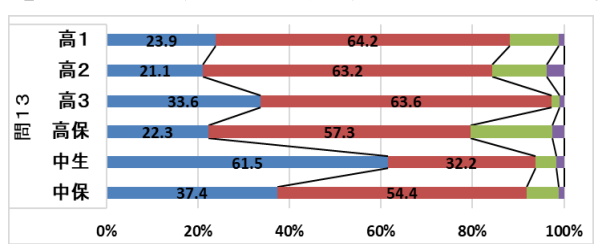
一方、新学習指導要領の施行や一人一台端末の導入など、社会の変化に伴い、生徒の実態や教育環境も急速な変化の波を受けている。時代の変化に対応し、中高一貫校としての特色を生かしながら、本校の育てたい生徒像と、指導計画の再構築に取り組まなければ、引き続き肯定的な回答を得ることは難しくなっていくだろう。

【防災教育（災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている）】



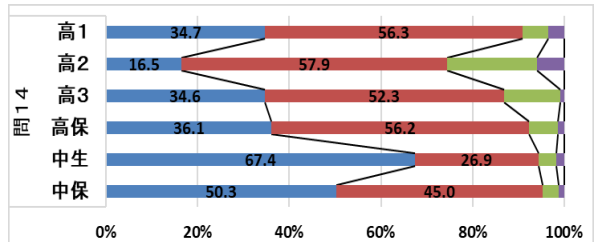
(分析) 本年度は、前期後期にそれぞれ1回計2回の防災訓練を実施した。6月に地震対応・1月に火災対応という内容である。支持される数値をみると、昨年度と比較して、高校生3ポイント中学生11ポイント上昇している。これは、昨年度コロナ禍における避難訓練未実施の影響を受け支持率を下げたことに対する反動とみることができる。また、年度当初に、一斉メール配信による非常時安否確認テストを実施した。返信内容についてのまとめ等課題はあるものの、一定の成果を上げることができた。今後の課題としては、防災訓練の実施内容や実施回数等をどのように学校活動の中に組み入れていくかがあげられる。

【開かれた学校づくり（学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている）】



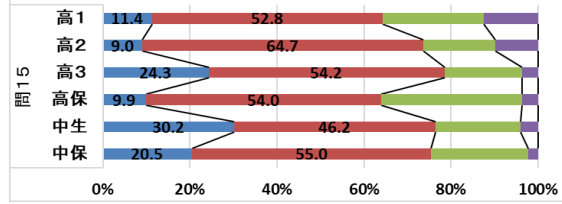
(分析) 中学校・高校ともに80%を超える支持があり、概ね良好な状態である。今年度も昨年同様コロナの影響を受けた学校活動ではあったが、HP等で学校からの情報提供を頻繁に行ったことが好影響をもたらしたものと考えられる。課題としては、学校からの各種便りが「生徒から保護者に届かない」という声の一部あるため、その具体的方策を模索中である。

【施設整備（校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている）】



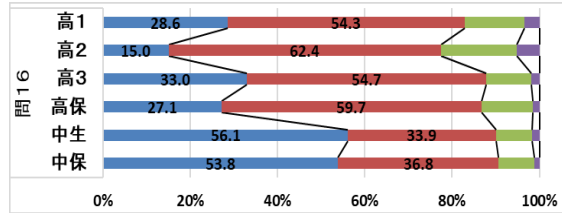
(分析) 施設設備については昨年度とほぼ同様の評価結果であった。評価の傾向も昨年度同様に中学校と高校で若干異なっており、特に高校の「よく当てはまる」の評価ポイントが低い傾向にある。これは十分な冷房能力を有する高校普通教室用のエアコン設置が今年9月となったことで、設備的な熱中症対策が十分ではなかった事も要因と思われる。次年度は中高ともに効果的・効率的な空調設備の運用を行い、適切な学びの環境を確保していきたい。また、他の施設についても定期的な点検と計画的な改修整備を行い、安全・安心な施設の維持管理に努めたい。

【いじめ対策（学校として、いじめ問題に対して取り組んでいる）】



（分析）コロナ禍でのいじめ対策はその範囲が SNS 上のものにまで広がり、学校としても把握しきれないものがほとんどである。今年度は2度の二者面談、アンケート実施（2回）、講話2回（ネット被害・いじめ）という取り組みであった。概ね7割の肯定的評価を得ているが、いじめ問題に対する一層の工夫や情報発信が必要である。

【総合満足度（学校生活は充実している）】

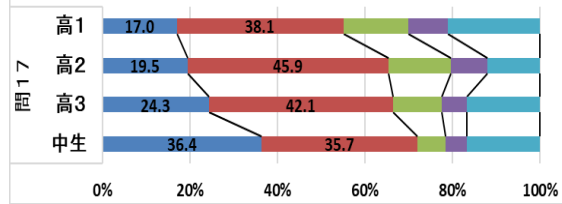


（分析）昨年度から続いているコロナ禍の現在、総合満足度の結果が目立ったが、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」は中学生90%、高校生全体82.7%、中学保護者90.6、高校保護者86.8と高い割合となった。ただし、昨年度と比較すると、高校生以外は約3～6ポイントほどダウンしている。高校生については、昨年度より6ポイントほど向上したとは言え、「よく当てはまる」のみの割合は昨年度同様高くない。やはり、コロナの影響が予想以上に続き、行事や部活動等に対する様々な制限・制約が長引いている結果が端的に数字に表れたものと考えられる。中学生については「よくあてはまる」が昨年同様6割近くに上り、中学校においては、コロナ禍における様々な指導や工夫・サポートが実を結んだ結果であると考えられる。

○ 本校独自質問事項

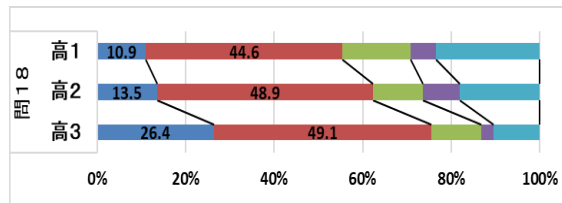
※グラフは左側から、よく当てはまる、だいたい当てはまる、あまり当てはまらない、あてはまらない、わからないです。

【2WT（ツーウィークテストは基礎学力向上に役立っている）】



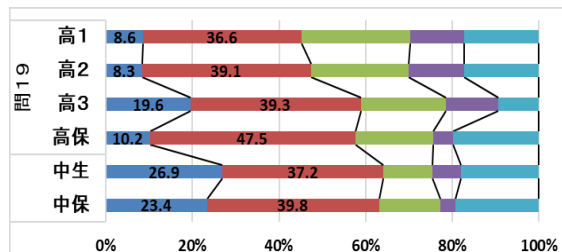
（分析）（中）評価については、今年度においても前年度から引き続き、微々ではあるが向上傾向が見られた。学校評価を通して判明した実施上の改善点などを検討していきたい。
（高）昨年度と概ね同様の結果であった。どの学年も「分からない」と回答した生徒の割合が一定数いることから、2WTの実施により目指す効果について高校卒業後の進路指導と関連付けながら説明するとともに、より効果的なあり方を検討していきたい。

【課外（長期休業中の課外や平日課外は進路達成に役立っている）】



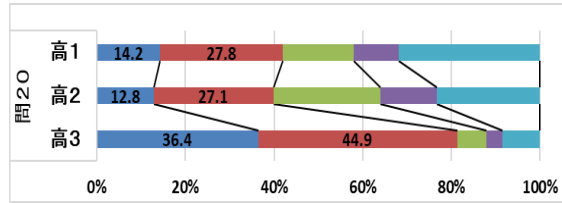
（分析）高校1・2年生の数字が低いのは、今年度から1・2年生の土曜課外および長期休業中の講習をすべて希望者にした影響かと思われるが、そもそもここ何年かの講習出席率の低下を危惧しての対応だったことを考えると、もっと抜本的な議論が必要なかもしれない。ただ、課外講習は生徒たちのやる気があって成り立つものであることを各学年深く考えていく必要がある。高校3年生においては進路決定の時期であることを考えれば当然の数字である。

【SSH（SSHは科学の興味・関心の向上に役立っている）】



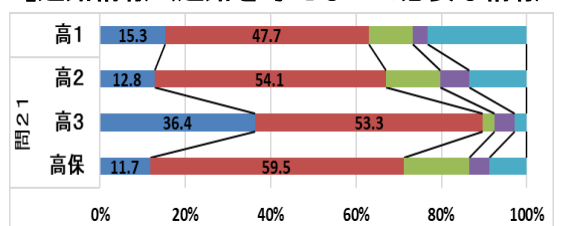
（分析）高3は高校3年間を通して第2期SSHカリキュラムを経験した初めての学年である。学年が上がるにつれて「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答する割合が増えており、順調にSSHの成果が波及している。オンラインを活用した発表会や地域連携の機会拡大、アドバンスコースの課題研究強化など、実施可能なことを模索しながら、SSH事業は有効に作用している。今後できるだけ多くの生徒が関わる機会を提供し、生徒の将来に生かせる事業として成長させたい。また、SSHは科学技術系人材の育成というねらいのもとで実施されている事業であり、この問いはそれに沿ったものであるが、文系志向の生徒が肯定的な回答をしにくい可能性も考えられる。SSHは文系理系を問わず探究力の向上を目指すものでもあり、探究学習に取り組む意識を調査すると、さらに肯定的な回答の割合が増えることも期待できる。

【進路室関係（進路資料室、自習室は利用しやすい）】



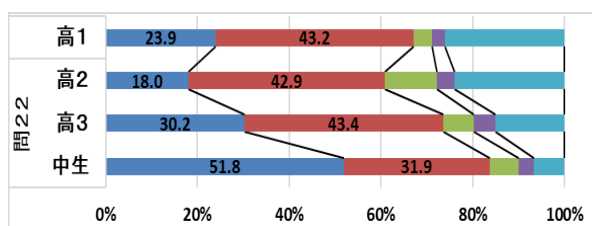
（分析）スペースに限りがあるために、どうしても高校3年生を中心とした使用にならざるを得ない状況である。そんな中でも定期考査前などは早めに席を取る下級生の姿や、図書室で自習をする姿が見られる。進路資料などは毎年更新しており、必要な資料については充実しているため、積極的に活用してもらえればと思う。

【進路情報（進路を考える上で必要な情報が十分に提供されている）】



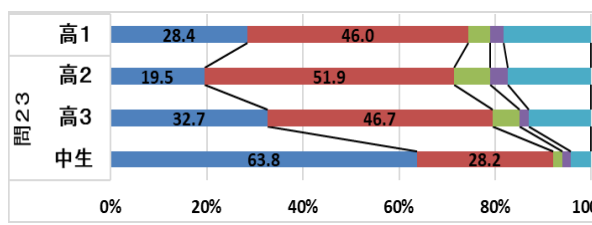
（分析）昨年から新入試が開始され、特に3年生の関心が高い。他学年においても機会を捉えて説明してきたつもりではあるが、この数字を見ると高校3年生以外は若干心許なく思われるので、学年スタッフと連携をとりながら、学年の性質に応じた情報の提供に努めていきたい。ただ高校の保護者の数字が低いのは若干気になる場所である。学校から配布している様々な資料や通信が確実に保護者のお手元に届くように生徒たちにも呼びかけていきたい。

【図書館（学校図書館の蔵書は充実している）】



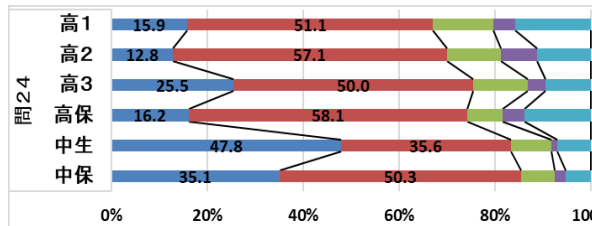
（分析）ほぼ例年並みの評価ではあるが、高2生で満足度が低下している。これは探究的な学習で実際に資料を探そうとした際に、望む資料が学校図書館では見つけれなかったということが課題として感じられた結果ではないかと思われる。今後も図書館予算やSSH予算等を活用して、生徒の学習に必要な蔵書を揃えていけるようにしたい。中高全体で70%の生徒が高評価をしている一方で、高1・2生の20%以上の生徒が「わからない」と回答していることも気になる場所である。蔵書の検索システム、リクエストのしかたなど、さらに情報を伝えていきたい。

【図書館（学校図書館は、利用しやすいように整備されている）】



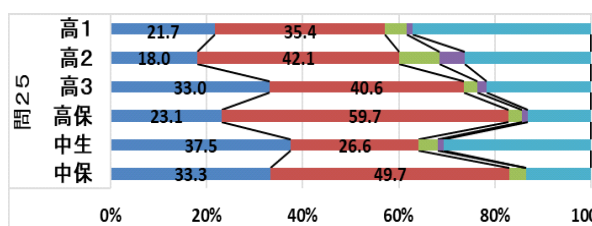
（分析）中学生は微減したものの非常に高い評価である。日常的に教室のすぐそばに図書館があることの利点を最大限に活用して、授業以外の時間も多目的室等を利用する姿が見られる。感染対策として、昨年から継続して消毒液・飛沫防止パネル等を設置し、安心して利用できる環境を整えている。中高全体で79%の生徒が高く評価しているが、高校の利用促進に課題が残る。授業での図書館利用や朝読書の拡充、HR読書会の実施など、日々の教育活動と連動した働きかけを行っていきたい。

【心身の健康への配慮（学校は心身の健康に十分に配慮してくれている）】



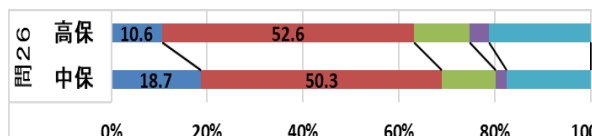
（分析）高校生は昨年とあまり変化はないが、中学生の肯定的評価が若干下がっている。保護者は中高とも評価が低下または「分からない」が増えている。年度により評価は上下するので、保護者の期待がどこにあるのかを探りつつ、今後も感染症予防の継続、こまめな家庭との連携を図っていきたい。

【事務室の対応（事務室は学校窓口として適切に対応している）】



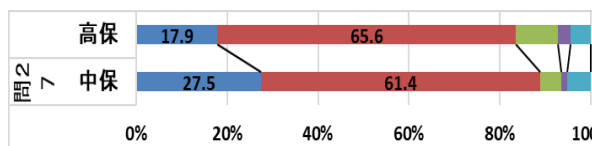
（分析）例年同様、「わからない」を除き、概ね「当てはまる」との評価であったが、中高ともに若干ではあるものの「当てはまらない」との声があった。このことは、一部ではあるが要望等に十分に対応できなかったケースがあったということであり、今後も電話・窓口等での問い合わせや依頼等に対し、相手の立場に立った親切かつ丁寧な対応を心がけていきたい。

【交通安全指導（交通安全指導等の安全指導が十分に行われている）】



（分析）ほぼ例年並みの評価であった。春・秋の「全国交通安全運動」期間中の一斉指導、生徒指導部での街頭指導などを行ってきた。しかしながら、近隣住民等からの苦情や指摘の電話を多数受けたのも事実である。交通安全協会や近隣小中学校PTAと連携した交通安全指導のあり方を検討していきたい。

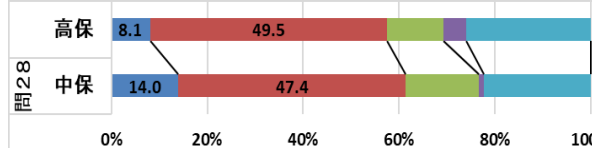
【授業参観や面談（授業参観や面談等は参加しやすい日程で組まれている）】



（分析）（中）今年度の授業参観の一部が、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったにもかかわらず、概ね昨年度同様の評価をいただいた。今後も、PTA役員の方々をはじめ、保護者のご協力のもと、計画・実施していきたい。

（高）昨年度と同様、授業参観の機会を設けることができなかった。7月の三者面談期間は、黎明祭の時期変更も影響し、休業前の午前授業期間と夏期課外実施期間を提示させてもらった。肯定的な評価は多くいただいているが、引き続き安定した学校行事の運営、授業時数確保の観点も大事にしながら適切な時期を模索していきたい。

【PTA活動（保護者と教職員の連携が密で、有意義なPTA活動が実施されている）】



（分析）（中）昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、特に広域にわたるPTA行事の多くが中止やオンライン開催になった。また、行われた活動も、保護者と教職員の連携のもと、感染症に配慮しながら実施された。コロナ禍の経験を踏まえ、今後の活動を工夫していきたい。

（高）今年度も新型コロナウイルスの影響を受けた活動であった。PTA総会は書面での決議で実施し、文化祭は全体縮小開催につきPTAの参加催し物は無しという形態で、役員会に関しても年度当初の1回というものであった。しかしながら、そのような状況下においてもできる限りの活動を行いたいという思いから、調査広報委員会による例年通りの刊行物「きりり」の発行、健全育成委員会は「秋の挨拶運動」を一週間実施、進路対策委員会は「進路対策に関する講演会」を実施するなど、限られた環境の中ででき得ることを実施した一年でもあった。今後の課題としては、PTA役員会を中心に次年度へ向けて活動の正常化を図るとともに、ポストコロナにおける新しいPTA活動のあり方を模索することである。

※令和3年度の学校評価についての詳しいデータは、学校ホームページに掲載してあります。どうぞご覧くださいませようご案内申し上げます。